

末長い交流の架け橋として

那覇市・福州市友好都市締結20周年記念事業「日中友好の翼」

那覇市と福州市が友好都市の締結をしてから今年で20年。その節目を祝うべく、翁長市長を団長とする160人の大訪問団が11月21日から25日の日程で福州市をはじめとする中国各地を訪れました。福州の地に降り立った訪問団を待っていたのは聞きしにまさる福州市の熱烈歓迎ぶり。福州市滞在中の3日間、公式訪問団はどこを訪れてもまさに国賓級のもてなしをうけました。

全行程を通じて大変意義深い交流がなされましたが、今回の公式行事のなかでもハイライトは2日目の晩に開かれた那覇市・福州市の合同祝賀会。友好の証として記念品を交換し、「21世紀に向けた友好都市促進」に関する合意書の調印で両市の更なる交流の発展を確認した。

馬尾(びび)経済技術開発区の日系企業や歩行街(歩行者天国)の視察は沖縄の経済活性のヒントになる有意義なものでした。加えて那覇市立上山中学校と福州外国語学校との間に友好学校締結の機運が盛り上がり、それについての芽出しの話ができたのも今回の大きな成果でした。

全行程を通じて沖縄と中国の歴史的・文化的つながりの再確認と福州市の那覇市に対する熱い思い、そして今後の両市の経済交流を中心とした更なる交流の発展と可能性を強く実感した旅でした。

(平和と国際交流室)



「21世紀に向けた友好都市促進」の合意書に調印後、かたい握手を交わす翁長那覇市長と練福州市長



友好の架け橋となった訪問団のみなさん。



那覇



のんびりゆっくり散歩や買物が楽しめる福州歩行街(歩行者専用道路)



公園は市民のコミュニケーションの場。早朝からおおぜいの人々が社交ダンスを楽しんでいました(西湖公園)



川面に映る、いにしえと現在の福州市の姿(西湖公園)